

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプレー
リグランド・リチャーズ
ヒュー・B・ブラウン
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ベリー

諮問委員会

ロバート・D・ヘイルズ
(内務伝達部長)
ジョン・E・カー
(配送翻訳部長)
ドイル・L・グリーン
(教会誌編集主幹)
ダニエル・H・ラドロウ
(教会教課企画調整主任)

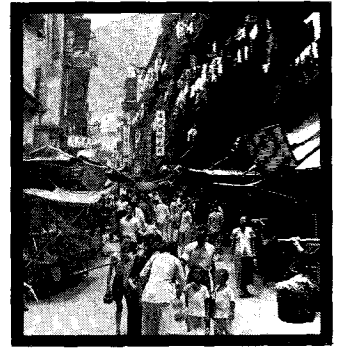
国際機関誌編集主幹

ラリー・ヒラー
ロジャー・ギリング (デザイナー)
日本語コーディネーター
八木沼 修一

1975年 11月号

も く じ

今の世の人々に悔改めを叫ばんために	497
地域総大会報告	499
東洋の真珠, 香港	505
険しい頂とそびえ立つ信仰, 台湾	507
日本のお友だち	509
フィリピンのお友だち	510
香港のお友だち	511
韓国のお友だち	512
台湾のお友だち	513
お母さんはよいむすこをもちました	514
おもちゃばこ	515
日本, 日出づる国の福音の光	517
東洋の不死鳥, 韓国	521
バヤニハンの島, フィリピン	524
ローカル・ニュース	526



P. 505



P. 507



P. 517



P. 521



P. 524

聖徒の道 11月号

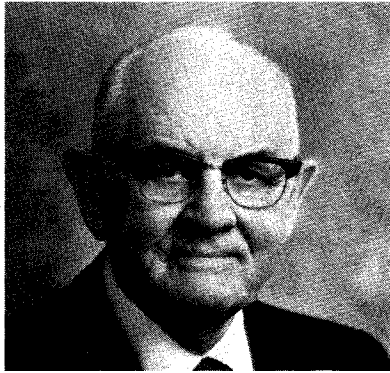
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-8-10
配 送 東京ディストリビューション・
センター
東京都港区南麻布5-10-25
定 価 年間予約 1,700円 1部 150円
海外予約 2,200円

INTERNATIONAL MAGAZINE Printed in Japan

◇今月の表紙◇

香港の夜景

今の世の人々に 悔改めを叫ばんために



大管長
スペンサー・W・キンボール

私たちは今日の俗悪放蕩の中に、ソドム、ゴモラ、そしてバビロンの再現を見る。

愛する兄弟姉妹の皆さん。間もなくこの年次総大会もその幕を閉じようとしている。あなた方もこの大会から多くのものを得たことであろう。そう願っている。

この大会で、大勢の人々が麗しい証と力強い説教を述べた。また、数百万になんなんとする聴衆が清い心と寛容な気持をもって、これらの言葉に耳を傾けてこられたものと思う。私たちは、その中から大勢の人々が、現在数百万の会員を擁するこの偉大な教会に加わることが望まれるものと期待している。

私たちはこの福音が真実であることを知っており、全世界の人々にこのことを証している。そして、人々が過去の偏見や誤解をすべて拭い去って、イエス・キリストの羊の群れに加わるよう、私たちは願っている。汚れなく、純粋な福音は、この教会にこそあるからである。

この大会中、幹部の兄弟たちはいろいろなテーマで話をしたが、それらはすべて、イエス・キリストの福音の原則に則ったものであった。

数日前の記者会見において、次のような質問を受けた。「今日の社会で、あなたが最も憂慮しておられることは何ですか」と。私はその記者会見ですでに取り上げられていた教会の発展に伴う問題をあげようと思った。なぜなら、現在教会は著しい発展を続けており、民を導く指導者を育てることにやや困難をおぼえているからである。しかし喜ばしいことに、私たちは前進を続けている。

私はこのことを即座に心の中に思いめぐらし、先の質問に答えようとしたとき、アッシリアとバビロニアが世に権力をふるった時代のことが心に浮かんできた。私は今、昨夜の神権会でロムニー副管長が語った、旧約聖書のベルシャザルの物語を思い起こしている。彼は、バビロンがキュロス（クロス）大王に征服される前に大きな勢力を奮った最後の王で、あの名高いネブカデネザルの息子であり、後継者であった。私たちは、エルサレムにある聖なるソロモンの神殿を汚し、その神殿から多数の高価な品々を運び去った、ネブカデネザルの不敵な略奪行為のことも思い起こした。

ベルシャザル王は大臣1千人と盛大な酒宴を催し、彼らと共に酒を飲んで

いた。1千人分の食事を用意することは、容易なことではない。

ベルシャザルは、主の目的のためにすでに献堂されていた聖なる神殿から彼の父が略奪してきた金銀の器をただながめるだけでは飽き足らず、それで酒をくみかわしたのであった。彼は1千人の大臣だけでなく、王子や妻やそばめをも宮殿に招いたのである。彼に招かれた者たちは、飲み食いし、金、銀、青銅、鉄、木、石などの神々のために乾杯したものと思われる。（ダニエル5：1-4参照）

今日の世の中の様子、特にその放縱に満ちた様を思いめぐらし、私は歴史は繰り返すのではないだろうかと思うようになった。今日の新聞や雑誌を読むと、ふたつの時代の間に極めて著しい類似点があるように思われる。多くの場所で、社会の指導者と仰がれるおびただしい数の人々が盛大な酒宴を設けている。実業家やその妻、めかけたちも同様である。彼らは酒に酔いしれ、放縱な生活を送り、不道徳に走り、不貞を働いている。これらの記事を読むにつけ、私は「歴史は繰り返す」とつぶやかざるを得ないのである。

私は現代の世の道德について、いやになるほど多くのことを語ってきた。しかし、主は教義と聖約の中でこう言っておられる。「汝ら今の代の人々に向いて、悔改めのほか何事をも語るべからず。わが誠命を守りまたわが誠命に従いてわが業を起すを助けよ。」（教義と聖約6：9）

また言っておられる。「悔い改むる人を見て彼の喜びは如何に大いなるか。

これを以て、汝らは今の世の人々に悔改めを叫ばんために召さるるなり。」（教義と聖約18：13, 14）

初期の聖徒たちがミズーリ州に向かっていたときに、次のような主のみ言葉がその指導者たちに下された。

「彼らは行く行く教えを説きて至る所に真理の証をなし、富める者、位高き者、卑しき者、貧しき者を訪いて悔改めを為さしむべし。

世に住む民悔い改むる心あらば、彼らに教会を建てさせよ。」（教義と聖約58：47, 48）

そのように、今は悔改めの時代であると思う。人々が自らの状態を振り返り、本来の姿にその生活を変える時代

である。

かつて主がシモン・ペテロに直接に戒めを与えられたように、今日の指導者にも戒めが下されている。「この故にわれ汝らに一つの誠命を与う。汝らこの民の中に行き、その名をペテロと言ひし古えのわが使徒が言ひし如くこの民に言うべし。」(教義と聖約49:11) 私は、ペテロが人々にその生活を清くし、罪を悔い改めるよう絶えず呼びかけていたことを知っている。

ペテロは言っている。「愛する者たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたは、この世の旅人であり寄留者であるから、たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。

異邦人の中であって、りっぱな行ないをしなさい。そうすれば、彼らは、あなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのりっぱなわざを見て、かえって、おとずれの日に神をあがめるようになろう。」(Iペテロ2:11, 12)

未婚の男女が肉体関係を持つことも今日の世では普通になっていると聞く。彼らは、結婚などもはや必要ないと、いつも声を大にして主張している。結婚することなしに一緒に暮らし、肉体関係を結ぶことに対し、彼らはほとんど何の恥じらいも感じていないのである。神がその律法を変えられたのであろうか。それとも、弱く、あてにならない、横柄な人間が勇気を賭して神に挑み、神の律法を変えたとしても言うのだろうか。罪は過去にのみ存在したのだろうか。悪魔ははるかな昔のみ、人々の心を支配したのだろうか。

アブラハムは、ソドムやゴモラ、その他の低地の町々が邪悪であったことを知っていた。カインが語ったように「わが知るべき主とは何人なりや」(モーセ5:16)と云う、邪悪で、神を信じない者たちがそこに住んでいたのがあった。アブラハムは、それらの町の滅ぼされる日が近づいたのを知ったとき、彼らをあわれに思い、「五十人の正しい者のために」他の者たちを助けて下さいと主に請い願った。(創世18:24参照) アブラハムはさらに請い続け、45名の正しい人がいたら助けて下さるように、40名、30名、20名、さらには10名の正しい人のために助けて下さるようにと願ったのであった。しかしそれらの悪徳の町には、10名の正し

い人さえ見出せないことは明らかだった。(創世18:24-32参照)

悪は続き、罪人らは頑として変わらなかった。彼らは滅びが下されようとしていることを警告されながらもそれを笑い、あざけた。そして、ソドムの名を広く知らしめた罪深い行為は絶えて止まなかった。事実、町の住民たちは、清い御使いたちが町に来たのを見て、御使いたちを陥れようと考えた。罪深い男たちは御使いたちの泊まっていた家に押しかけ、その入口を打ち破ろうとしたのである。(創世19:4-11参照)

アブラハムは、その町を救うために、彼がなし得るすべてのことを行なった。しかし民の墮落と放縦ははなはだしく、それを救うことは不可能であった。

「主は硫黄と火とを主の所すなわち天からソドムとゴモラの上に降らせて、これらの町と、すべての低地と、その町々のすべての住民と、その地にはえている物を、ことごとく滅ぼされた。」(創世19:24, 25)

歴史は繰り返すということ、私たちは目の当たりにしている。ポルノグラフィ、姦淫、同性愛が横行し、自由奔放な生活をする人が増してきたのを見ると、サタンの時代が戻り、歴史は繰り返されているように思えるのである。

今日の社会に住む非常に多くの人々が、品のない姿で、汚らわしい言葉を使い、奇行に走り、墮落しているのを見ると、サタンはその邪悪な手を伸ばして、この地上の民を彼の軍勢に引き入れてしまったのだろうかと思える。私たちの世界を脅かしている悪を追い払うに足るだけの正しい人々はいないのだろうか。人々はなぜ悪に妥協し、罪を黙認し続けるのだろうか。

最近私は、ふとした機会に、6代前の大管長会の声明を見出した。私は今、その声明文から多くの箇所を読んでもらいたいと思っている。なぜなら、神が昨日も今日も明日も、永遠にわたって同じ神であることをその声明から思い起こせるからである。神が昔の予言者たちと、救い主の時代の予言者たち、現代の予言者たちに与えられた戒めから、私たちは、神が昨日も今日も、永遠にわたって同じ神であることを十分に理解できるのである。

私たちは、人間が状況に即座に左右されてしまう存在であるとは信じない。現代は過去の時代と異なり、人々の知性は優れ、現代は過去の時代にとって代わったのだと考える人々がいるが、私たちはそれには承服しかねる。主は、過去に下された言葉をいつまでも守り続けられるであろう。そして、自分自身と伴侶と家族を敬い、正しい生活を送るよう人に期待をかけられるのである。主はこのことを過去に何千回となく繰り返し述べてこられた。

記者の方々に話しながら、そのことが私の心に浮かんできたのであった。私たちは現在行なっていないどのようなことを行なえるだろうか。どこまで行なえるだろうか。この世において正義を守り続けるために、何を変えればよいだろうか。もしもこれを行なわなければ、バビロニア人や、幾分方法は異なるがソドムとゴモラ、その他の町々に下されたと同じ滅びが下されるように思えるからである。

私たちはこのことを非常に強く感じている。私たちが福音を宣べ伝えている理由はここにある。この理由で私たちは子供たちに警告を与え、彼らを教え、青少年にも警告を与えている。また、すでに結婚している人々に、その結婚を美しく清い状態に保つよう警告しているのもこの理由による。

兄弟姉妹、この大会を終えるにあたって申し上げたいことがある。高い霊性をもってそれぞれの家に戻り、教会幹部の話から得た証と、心に受けた深い感動とを、家族や友人、ワード部、ステーキ部、支部の会員に伝えていただきたい。

この話を終えるにあたって証を述べたい。私は神が生きておられることを知っている。イエス・キリストは生きておられる。主は私たちを愛し、私たちに靈感を下し、私たちを導いておられる。主は私たちを愛しておられる。主は愛や悲しみの感情を持っておられる御方である。私たちが主のはっきり示された、まっすぐな道からそれると、主は非常に悲しまれるのである。

この証を主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



地域総大会報告

ラリー・ヒラー

この8月、日本、フィリピン、香港、台湾、韓国の教会員のために地域総大会が開かれた。日程は日本：8月8日—10日、フィリピン：11日—12日、香港・台湾：13日—14日、韓国：15日—17日である。各大会とも数千から数万名に及ぶ教会員、求道者が集い、キンボール大管長ならびに随行の教会幹部から教示を受けた。

ある者は13時間も立ち通して夜汽車に揺られ、またある者は2日も船に乗って大会の会場にやって来た。中には1,600キロもの道のりを6日間もかかって、船とバスを乗り継いで来た者もいた。

盲目の人がいた。聾啞者がいた。車椅子を操る人もいた。そして麻痺した体をも省みず、友人に支えられながら

会場に入る人さえ見受けられた。

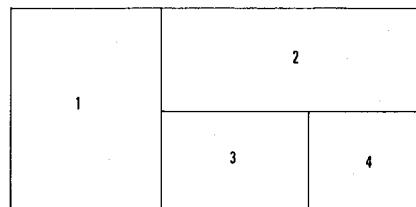
裕福な商人もいれば貧しい農夫もいる。教会員となって60年にもなる人もいればつい2、3日前にバプテスマを受けた人もいた。

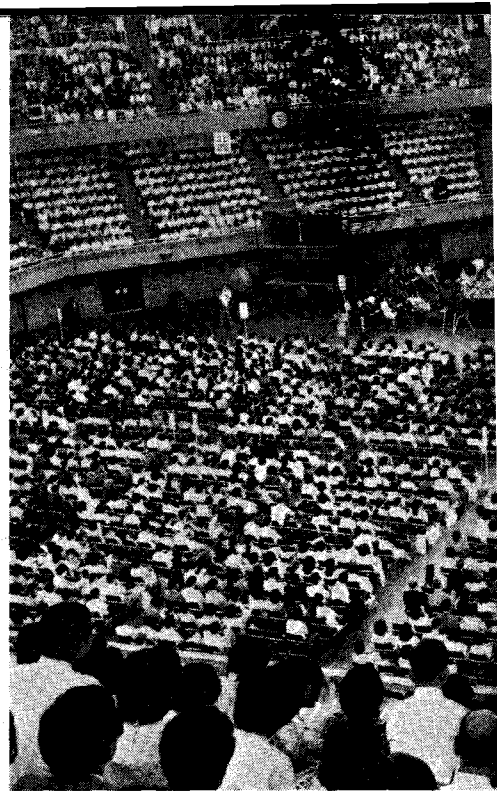
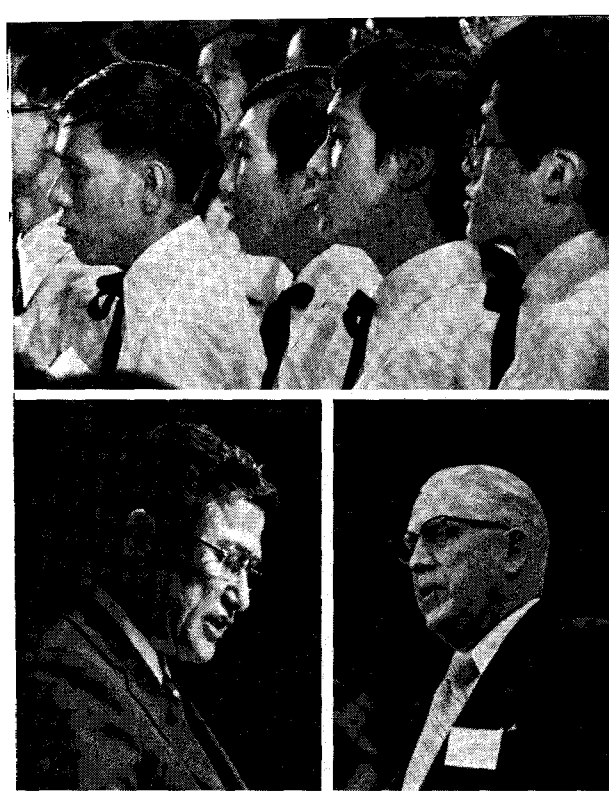
日本語、英語、中国語、そして朝鮮語を話す人々が、東京、マニラ、香港、台北、ソウルへと集まったのである。

確かに、話す言語は異なっていた。しかし、たったひとつ共通のものがあつた。それは、霊の糧を得るためにこの大会に集つたということである。彼らは主により油灌がれた僕、特に主の予言者スペンサー・W・キンボール大管長の声を聞くために大会に来た。

キンボール大管長と随行の教会幹部が2週間足らずの内に旅した道のりは25,600キロに達する。教会幹部の説教

1. キンボール大管長。1915年にバプテスマを受けた日本人教会員、奈良富士哉兄弟と共に
2. 香港で話されるロムニー副管長
3. 台湾の聖歌隊
4. 教会幹部を助ける通訳者たち





5. 香港の青年コーラス
6. マニラの教会員に語る小松長老
7. シル長老（日本）
8. 全身全霊を一本の指揮棒に託して
9. 日本の大会に集った大群衆
10. 教会員は天父の家族の一員であることを語るピーターソン長老（香港）
11. 教会幹部のメッセージは、同時通訳により自国語で伝えられた
12. 人生が価値ある旅であることを日本の聖徒に語るポール・H・ダン長老
13. 空港での出迎え

5			10	11	12
6	7	8	9	13	

は合わせて91あったが、キンボール大管長はその内14の説教を行ない、その他記者会見や特別集会での話を含めると、その量は驚くばかりである。

キンボール大管長に随行したのは、マリオン・G・ロムニー第二副管長、エズラ・タフト・ベンソン十二使徒評議員会会長、十二使徒評議員会からゴードン・B・ヒンクレー、マービン・J・アシュトンの両長老、十二使徒評議員会補助からはスターリング・W・シル、ジェームス・A・カリモア、O・レスリー・ストーン、J・トーマス・ファイアンズ、アドニー・Y・小松の各長老、七十人最高評議員会会長のポール・H・ダン長老、管理監督会のH・バーク・ピーターソン第一副監督、さらには大管長会特別顧問のデビッド・M・ケネディー、バーバラ・B・スミス扶助協会中央管理会会長である。

日本および韓国の大会はこれまでの地域総大会と同じ形式を踏んで行なわれた。すなわち金曜の夜は各ステキ部、伝道部が繰り出す民踊の数々。土曜、日曜は通常の大会セッションが2回ずつ、さらに土曜の夜は、既婚者と26歳以上の独身者のために両親の夕べ、25歳以下の独身者を対象として若人の夕べが催された。また神権指導者のための集会在日曜の早朝に行なわれた。

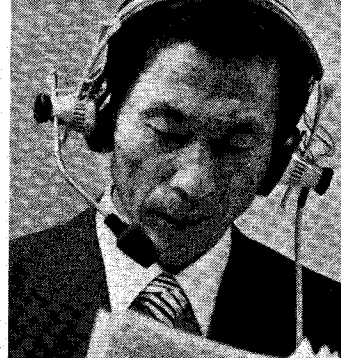
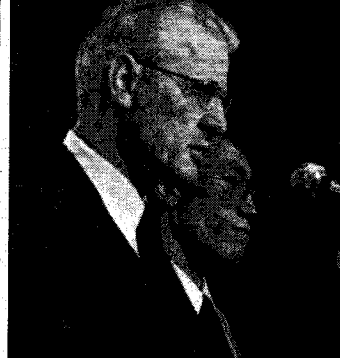
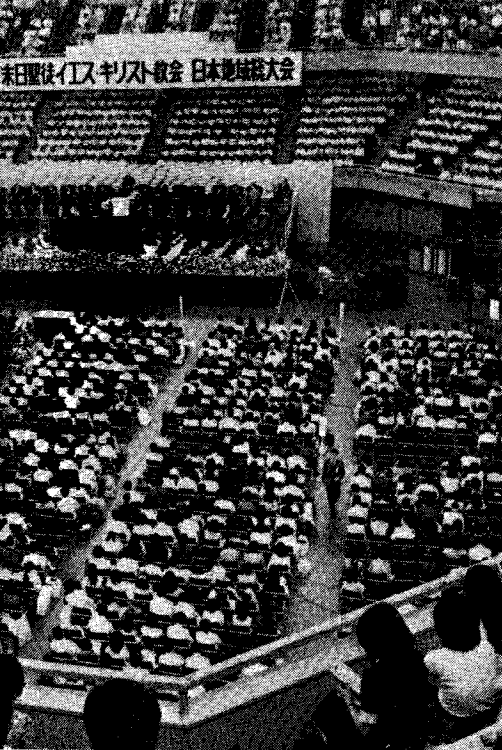
今回のアジアの地域総大会と過去に開かれたものと異なるのは、東京大会とソウル大会の間に小規模ながらさらに3つの地域総大会が開かれたことである。

その口火を切ったのがフィリピンである。フィリピンでは月曜の夜1時間を文化活動に、その後の1時間ならびに火曜の午後と夜に通常のセッションが持たれた。

香港と台湾の大会は教会幹部を2グループに分け、同時に開催された。会水曜および木曜の夜開かれたが、大管長は最初香港の大会を管理した後、木曜の朝台北へ飛び、台湾の第2日目の会を管理した。逆にロムニー副管長は第1日目は台湾、2日目は香港の大会を管理した。

恐らくこれらの大会で最も重要な出来事は、大管長による東京神殿建設の発表であろう。この発表は8月8日、土曜日、東京での最初のセッションの冒頭で行なわれた。

会場に集まった人々にとってこの発表はあまりにも重大で、また胸を打つものであったのだろう。発表がなされたその瞬間、人々は耳を疑った。しかし与えられようとしている祝福の大きさに気づくにつれ、ある者は満面に喜びの笑みをたたえ、またある者は思わ



ず目がしらを押えた。そして、あふれ出る喜びと感動は、全会衆の盛大な拍手となって表われたのである。まるで、こみあげてくる喜びと感謝の気持を、ほかに表わすすべがないかのように。圧巻であった。

この発表を聞いた人々の中に奈良富士哉兄弟、熊谷たまの姉妹の姿があった。奈良兄弟は1915年、熊谷姉妹は1908年以来の教会員である。奈良兄弟は神殿建設の発表を聞くや喜びを顔一杯に表わし、支持の挙手が求められる前からもう手を挙げていた。彼は感動の胸の内をこう語る。「このような素晴らしい場に同席できることは、本当に大きな特権だと思います。」彼の心には、神殿建設予定地に現在建っている日本東京伝道本部の建物の献堂式の様子が浮かんでいた。そのときマシュー・カウリー長老は、日本の地に神殿の建つ日が来ることを予言したのであった。

熊谷姉妹はこの発表にただ驚くばかりだったという。言葉には言い表わせない並々ならぬ感動が、彼女の胸にはあふれていた。彼女の今の望みは、新しい神殿が献堂される様子をその目で見ることである。

日本の地域総大会に集まった人々は大部分が最近改宗した人であり、奈良兄弟や熊谷姉妹のように教会歴の長い

人はごくまれである。しかし、そのような比較的新しい人々も、この神殿建設の発表を長い間待ち望んでいた。と言うのは、ハワイ神殿まで行くには多額の金がかかり、貯えるにも相当の年月を必要とするからである。だが今や彼らは、生活を切り詰め、犠牲を捧げることにより、望むときにいつでも参入できる自分たちの神殿を建てることができる。そして永遠の家族という単位に共に結び固められるのである。彼らの目が感激のあまりうるんでいたのも当然のことであろう。

もちろん神殿が建設されるのは日本の地だが、恩恵にあずかるのは全アジアの教会員である。従ってどの会場においても、神殿のニュースは熱狂的に受け入れられた。また、時機到来すればアジアの他の地にも神殿が建つという予言者の約束に人々は喜びを表わしたのである。

確かに大会に参加した人々の心は神殿建設の発表によって高められたが、教会幹部によるみたまに満ちた説教は、どれひとつとってみても人々を高揚しないものはなかった。多くの人々にとって、大会に参加することは並大抵なことではなかった。遠距離の旅行、赤ん坊や子供の世話、旅費や宿泊費を捻出するための残業やアルバイトなどで

ある。また、教会員でない両親を説得して大会参加の許可を得なければならぬ若人も少なくなかった。

しかしこれらの困難にもかかわらず、人々はそれを犠牲だとは言いたがらない。ある者はこう言う。「犠牲でも何でもありませんでした。大会の発表があつてからずっと祈りと準備を続けてきましたからね。」

大会に強いみたまの導きがあつたひとつの理由は、多くの教会員が霊的な準備をしていたことにある。「私と妻は、大会の準備のためにだいふ前から一緒に祈り、断食をし、聖典を勉強してきました。」ある人はそう語ってくれた。

さらに、大会前の数カ月間、教会出席、ホームティーチング、什分の一や献金の支払いなどが向上したと報告してきた神権指導者も幾人かいた。今まで伝道となると尻込みしていた人たちも、教会のことや大会のことについて友人知人に話し始めたとのことである。

このような霊的、個人的備えに加えて、大会を成功裡に導くためにかなりの物質的備えが必要であった。適切な会場の選択と準備、通訳の選出と訓練、音響装置の設置、聖歌隊や文化活動参加者の編成や訓練、遠隔地から大会に集う人のための宿泊あつせん、宣伝等、挙げればきりが無い。そしてそのひと



つひとつには、大会を円滑に運営するために検討しなければならない項目が山ほどあったのである。

この準備のために、地元の聖徒たちは長時間、懸命に働いた。あるステーキ部長によれば、準備の仕事や文化活動への参加に対して申込みがあまりにも多く、全員に仕事を割り当てるのに少々苦労したとのことである。

教会員のこうした働きは、大会の準備のみにとどまらなかった。彼らは自ら進んで互いに助け合ったのである。会場近辺に住んでいる人は交通費や宿泊費を必要としない。そこで彼らは遠くから来る人々の宿泊のために家を提供し、食事を作り、案内役を買って出た。また地元出身の宣教師が大会に参加できるように献金した人々もいた。

人々は異口同音に言う。「準備をしたかいはありました。」大会は各国の聖徒にとって、正に靈的経験の大いなる集大成だったのである。会場にあふれんばかりの仲間と共に味わう暖かいみたまの導き、そこから生まれたものは一致であった。中でも聖歌隊や文化活動に参加した人々の一致、兄弟愛には目を見張るものがあった。

各大会とも聖歌隊は圧巻であったと言えよう。その歌声は美しく、熱意にあふれたものであった。各ユニットか

らの混成聖歌隊とはとても思えない。まるで何年も共に歌ってきたかのような見事さである。

聖歌隊で歌ったある若者はこう語った。「讚美歌は数え切れないほど歌いましたが、あんなに歌えたのは初めてです。僕自身の声もみんなの声も普段と全く違っていました。聖歌隊に参加しただけでも靈的な経験をすることができたと思っています。」

活動の夕べでの歌や踊り、ドラマも見事であった。準備には献身的な努力が払われたのであろう。グループが準備を始めたのは数カ月前からであった。ある国では、数週間にわたる練習の後大会開始1週間前に会場入りし、6日の間、日に最低9時間もの練習を積んだとのことである。練習は外で行なわれたが、彼らは雨が降っても踊りの手を休めなかった。

練習の合間の食事と休息の時間は友情を育む時間でもある。そしてこの友情の輪はワード部や支部、地方部、ステーキ部、伝道部の壁を越えて次第に大きくなっていった。やがてロマンスが芽生え、中には将来を誓い合うカップルも生まれた。また大会を終えてからもダンスや歌を続けていこうと決心した人たちもいる。

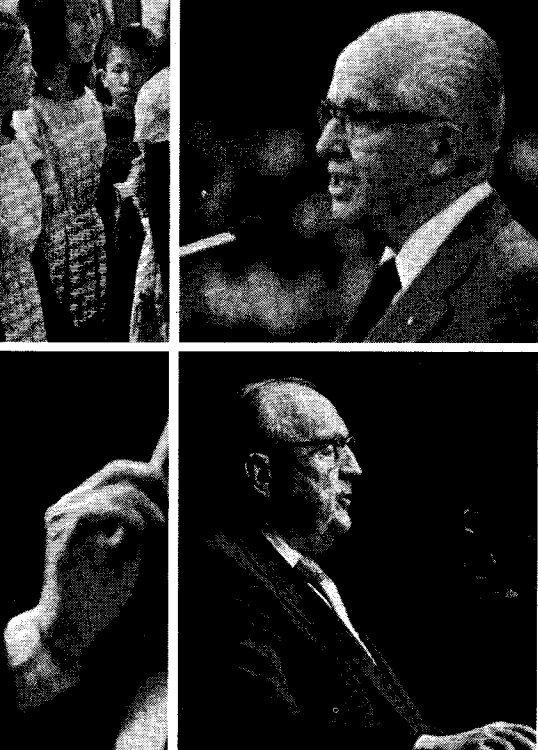
もちろんこの大会にあって最も重要

な事柄と言えば、出席した人々が受けた影響であろう。アジアでの地域総大会を終えて、どれだけの人の生活が変わっただろうか。それは測り知れない。人々は大会から力を受け、さらに義しい生活をしよう、伝道に出ようと決心したに違いない。そしてその変化は教会員でない友人や家族、親戚の人生に影響を与え、教会は以前よりも増して急速に発展していくであろう。事実、大会には求道者の姿が数多く見受けられた。フィリピンのある支部長は、大会に250名もの人々を招待できたという。そしてその中の120名が求道者であった。

この大会から特に力を受けたのは若人であった。大会の終りにある若人はこう話してくれた。「たくさんのことを学びました。まず、人生の目標を決めなければならないということです。また、清い生活をし、純潔の律法を守ること、聖典を研究し祈ることです。私は伝道に出る決心をしました。」

こう語った人もいた。「私は今まで支部や地方部の大会に何度も出席してきました。でもこれだけ多くの方が同じ証を持って集まっているのを見て、教会に対するイメージがさらに大きくなった感じです。」

ある少女は語る。「予言者が来られ



たのは祝福だと思います。子言者や教会幹部のおっしゃることを聞いて、これからも続けて主の道を歩んでいこうという勇気と信仰が湧いてきました。」

「私は子言者の顔を見ただけで証が強まりました。子言者の声を聞いていると、今まで覚えていた聖句がみな新鮮によみがえってくるのです。」そう語る人もいた。

ある若者はこう述べた。「伝道に出ようという望みがますます強まりました。大管長の話で一番印象に残ったのは純潔を守ることです。私は一生懸命自分自身を清く保ち、戒めもすべて守りたいと思います。」

そして、ある父親が語ってくれた次の言葉こそ、大会を終えたときの全会員の胸の内を端的に表わしているのではないだろうか。「教会幹部の素晴らしい話を聞いて、私たちは心の中に何とも言えない暖かい思いが湧き上がるのを覚えました。会員も求道者も、みなみたまを感じたのです。これから私たちは、その思いを実践に移さなければなりません。」

アジアにおける教会の将来は確かに明るいと言える。聖徒たちは霊的な備えをし、みたまの励ましを受けようと大会に臨んだからである。彼らは報いを受けた。証は強められた。そして必

ずや彼らは、得た証をそれぞれの国の同胞に分ち与えるに違いない。そうするとき教会の発展は早まり、会員数は増え、霊性と信仰は高められるのである。



福音に国籍はありません。全世界の人々はすべて神の息子であり、娘なのです。皆、私たちの兄弟姉妹です。主イエス・キリストが下された大切な戒めを私たちは果たしたいと心から望んでいるのです。主は11人の使徒だけにおっしゃったではありません。皆様にも、私にもおっしゃったのです。そしてこれは、軽々しく扱う類の言葉ではなく、はっきりとした戒めなのです。

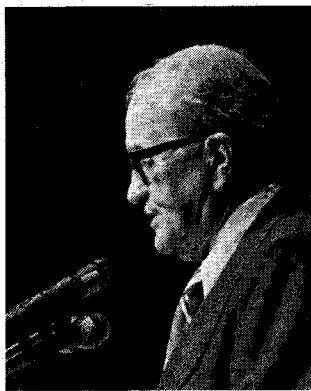
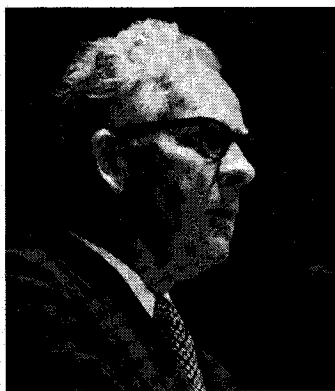
「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ16:15) 全世界のすべての男女に宣べ伝えよということです。

皆様のお子さんが、福音に忠実で気高く成長なさいますように、皆様の心に平安がありますように。皆様がこの業が神のみ業であるという証を得て、さらにこの大いなる業にまい進なさいますように。

大管長
スペンサー・W・キンボール
日本大会 日曜日午後0部

- 14. 韓国の聖歌隊
- 15. 台湾の聖歌隊
- 16. 韓国の人気ポピュラーコーラスグループ「テンダーアップルズ」、幹部到着に花を添える
- 17. 台湾の聖歌隊指揮者
- 18. 日本の聖徒に勧告を与えるベンソン十二使徒評議員会会長
- 19. カリモア長老(マニラ)
- 20. 豊かな色彩の活動の夕べ(韓国)

14	15	16	18	20
		17	19	



家庭は堅固な礎であり、文化の柱石です。いかなる国家といえども、家庭を差し置いて国家だけが偉大になるということは決してありません。教会も学校も国家も、弱く墮落した家庭を前にしては、なすすべがないのです。「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない」とデビッド・O・マッケイ大管長は言われました。両親の義務は、お互いに助け合い、また子供たちにとって良い助け手となることです。それから隣人、地域、国、そして全世界という順序で義務は広がっていくのです。

十二使徒評議員会会長
エズラ・タフト・ベンソン
台湾大会 水曜日夜の部

私はあなた方の多くがこの福音のために両親や兄弟姉妹のもとを離れ、友人や仲間のもとを去り、仕事や教育の機会を断念したことを知っています。あなた方は友人の嘲笑に耐え、主の祭壇に喜んで犠牲を捧げてこられました。あなた方は立派な末日聖徒です。神の真の教会の会員としてふさわしい方々です。あなた方には聖きみたまを伴侶とする資格があり、またこのまま忠実な生活を送るならば、いつの日か主を伴侶とするにふさわしい人物となることができるでしょう。愛する兄弟姉妹、あなた方の信仰と忠実さを主が祝福したもうように。

十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー
香港大会 水曜日夜の部

私は伝道に出ることを考え、その準備をしている方々、またまだ決心をしていない方々にも、私が教会幹部として伝道の業に従事している聖徒たちと接して得た素晴らしい経験を聞かせていただきたいと思います。私たちは管理監督会にあって多くの偉大な経験をします。しかし各伝道部を訪れ、イエスキリストの福音を宣べ伝えるために自分の時間を捧げている兄弟姉妹と接することほど私を喜ばせ、また霊的に高めてくれることはほかにありません。私はこの地上にあってだれにも与えられないような福音が、宣教師たちに与えられるのを見てきました。宣教師は主の目から見て特別な人ですから、主は他の子供たちには得られない特別な物を宣教師のために用意しておられます。美しい宣教師は、ほかの人が得られないような権威と権能と祝福を受けます。主の業の中で最も心が躍るものそれは宣教師になることなのです。

管理監督会第一副監督
H・バーク・ピーターソン
韓国大会 土曜日の若人の夕べにおいて

- 21. 行く先々で愛を示されるキンポール大管長
- 22. 香港の聖歌隊
- 23. アシュトン長老 (マニラ)
- 24. バートン長老 (マニラ)
- 25. 両親の夕べで話すバーバラ・スミス扶助協会中央管理会会長

21	22		25
	23	24	

東洋の真珠

香港

中国大陸は、火を吹く巨大な竜が東を向いているような格好で、周辺の小さな国々に影を投げながら東洋を見おろしている。中華人民共和国の南シナ海寄りをふちどる形のそのひとつが、英国の直轄植民地、香港である。香港は「東洋の真珠」として知られている。この植民地は香港島を中心に230以上の島々から成り、面積は合わせてわずか640平方キロである。

この地域は広さこそないが、主のぶどう園の中に重要な位置を示めている。



香港には過去3回、伝道が行なわれた。1回目は1853年にホセア・スタウト、ジェームズ・ルイス、チャップマン・ダンカンの3名が召されて合衆国から中国に向かったときである。彼らは希望にあふれ、福音を分かち機会を感謝した。しかしその希望は、数週の後には香港に到着してみごとに打ち砕かれた。「私たちは暖かい歓迎を受けなかった」とルイスは記している。また、「他の教会の宣教師たちは私たちに対する敵がい心をあおった」ともある。

この島で開かれた最初の街頭集会は盛況だったが、他のキリスト教会の妨害ですぐにだれも出席しなくなり、その後3回同じ集会が開かれたが、出席者はゼロであった。スタウト長老はまだ自分の召しに忠実だったが、今は改宗しそうな人は中国にはひとりもないと信じて、次のように書いている。

「私たちは、この地で神と人から望まれることはすべてをし尽くしたと思う。この地での仕事は中止だと判断した。」

落胆した3人の宣教師は、到着後4ヵ月ほどで香港をあとにした。バプテスマはもちろんのこと、福音に興味を持つ人はひとりもいなかった。ジェームズ・ルイスは巨額の借金をして帰宅

した。彼は自分の伝道を「人生の一大苦難」と呼んだ。ホセア・スタウトは、帰宅するとすぐ妻に死なれ、まだ新しい家は人手にわたり、親戚は引越してしまっていた。そのように一見無意味な犠牲のようであったにもかかわらず、ホセア・スタウトは次のように記している。「私たちの伝道が将来良い結果を見るだろうということに、私たちは満足を感じている。この民とこの土地について知識を得たが、こうでなくては、その知識は決して得られなかったのだ。」

主の時刻表では、香港の人々はまだ福音を受け入れる用意ができていなかったのである。そうして67年が過ぎ、2度目の伝道の試みがなされた。今度は十二使徒評議員会のデビッド・O・マッケイ長老と同僚のヒュー・J・キャノンが世界旅行の途中に立ち寄ったのである。彼らは数週間の旅の後、日本、韓国、満州を経て北京に着いた。1921年1月9日日曜日の朝、マッケイ長老は皇帝の居城であった「紫禁城」の中のキプロスの庭で奉獻の祈りを捧げた。

しかし伝道がようやく始まったのはそれから28年後であった。マシュー・カウリー長老が香港を訪れた結果、宣教師が送られたのである。1947年7月14日の出来事が、その年のうちに開かれた大会でのカウリー長老の話の中に記録されている。彼はこのように述べた。「私たちはひとりずつ順番に祈る簡易な礼拝によって、この伝道部を正式に開設した。私はヘンリー・アキ兄弟の祈りを忘れることができない。彼はそこに立って4億6千5百万の人口を持つ自分の故国に向かい、自分が民族に救いをもたらす器となれるように、神に切々と訴えた。兄弟姉妹、何という対照であろうか。4億6千5百万民族の中のたったひとりの神権者である。自分に課せられた荷を感じてあの愛する中国人の兄弟が神に民の救いを嘆願したあのときほど、神の神権の尊さに心を動かされたことはなかった。」

日本とハワイで伝道部長をつとめた

経験のあるヒルトン・A・ロバートソンの管理下で、伝道部が確立した。2度目の福音伝道の試みは、前回よりも熱意をもって迎えられ、数名のバプテスマが行なわれた。しかし朝鮮戦争と中国革命のためにまたも1950年、香港伝道部は閉鎖された。この閉鎖に伴い、宣教師は大勢の関心ある求道者を残して帰国した。

3回目の伝道は1955年に始まった。当時H・グラント・ヒートン伝道部長は、「私たちが教会に導くことのできる改宗者の数に限界を設ける唯一のものは、彼らにどれだけ正しく接することができるかという私たちの能力なのだ」と書いている。新しい改宗者は熱心な宣教師となった。ある兄弟はバプテスマを受けてから、新たに発見した真理に非常に感銘し、大勢の友人や親戚をグループに分け、宣教師を呼んで教えてもらった。

やってきた宣教師は、彼らが福音を知るためにではなく、教会員となるにはどうすればよいかを聞くために出席したことを知って、うれしい驚きを覚えた。福音を紹介した兄弟から強い証を聞いて、すでに心に聖霊の証を受けていたのである。

宣教師の話聞いて、多くの人が拒んだ。ヒートン伝道部長はその人々のことをこのように記している。「この地方の亡命者たちの中で働く宣教師たちにとって、イスラエルの子孫を世界のいや果てから集め来ることを予言した約束は現実なのだ。宣教師たちは毎日極東の各地から来た民と会っている。この民は自分たちの自由を守ろうという共通の願いから集まっている。少なくともそれは大半の人々が認める理由なのだ。しかし宣教師や、流浪の旅の間に福音の証を受け入れた人々にとっては、自分たちのこれまでの状態や環境は自分の励みとなる新しい意味を持つ。彼らは福音を学び、救いの福音の祝福が受けられる場所に集められているのだ。彼らにとっては、避難場が実際に『シオン』なのだ。」

この現代の「イスラエルの民」の多

くが教会に群れ集まってくる。福音の真理を認め、感謝の心でそれを受け入れるからである。実際、香港の改宗者数は多すぎて、一番の問題はその受け入れ方である。新しい改宗者は福音の概念についてさらに教えが必要であり、支部で何かの仕事を受け、隣人への奉仕によって活発な働き人となる必要がある。

香港の教会員の当面するチャレンジは多い。追放と家族の迫害、移住による教会員数の減少等。香港の教会員はそれらのチャレンジに遭遇しながらも、それを克服し、教会が除々に力を加えていくことを証明しているのである。現在は13支部に4千人の教会員がいる。7つの教会堂があり、そのうちふたつは標準の、もうふたつは改造の教会堂、あとの3つはビルの一室を借りて使っているものである。地方部センター用の土地もすでに購入済みである。以前はアメリカ人宣教師に指導されていた支部と地方部は、現在は全員が中国人指導者であり、すべての支部に長老定員会が組織されている。香港で働くフルタイムの中国人宣教師は17名で、そのほかに大勢の地方部宣教師がいる。

香港を出る人々の思いも、恐らくは変わってきているだろう。ある兄弟が、「中国人として生まれたからには、中国人であることに意味があるのです。香港にとどまって地域の兄弟たちに奉仕することが、神への一番の奉仕だと思います。」と語ったが、多くの教会員がこのように感じ始めている。

香港の教会が教会員数においても力においても成長を続けるとき、エズラ・タフト・ベンソン長老が1970年に述べた次の言葉は成就しつつあるのである。彼は、今こそ世界のこの地域に福音の教えが受け入れられるときだと語った。「主のみ旨にかなうとき、今や扉は開かれる」と。

1956年6月初旬のあるうららかな日に、南部極東伝道部の4人の長老が汽船で香港の港を発ち、「悪い報告ばかりを聞いていた」かの地、台湾に向かった。

「しかし……」とウェルドン・J・キッチン長老は報告している。「私たちは台湾をこの目で初めて見たとき、心をすっかり奪われた。山々が、まっさおな海にそびえ立ち、てっぺんは青空を射るようだった。山の険しさにもめげず、暗緑色の草木がびっしりと島を

おおって乾いた土地は見当たらなかった。

「美しい島」という意味の台湾の島に、伝道活動はこうして細々と始まった。しかし4人の長老は孤立していたわけではなく、合衆国軍人のグループが組織された。ただ中国や台湾の教会員はいなかった。長老たちは前もって9か月間公用の中国語を学習していた。

初めての土地に福音を宣べ伝え始めるときには、必ずと言ってよいほど苦労がつきものである。初めの4人と、

10月にまた派遣された、もう4人の宣教師は中国語の図書をほとんど持っておらず、モルモン経が翻訳されるまでに10年もかかった。（求道者は新約聖書を読むように言われた。）政府からは教会に対して何の干渉もなかったが、多くの宗派がいちはやく文書を発行して、信者たちにモルモンの宣教師の話聞かないように警告した。しかし長老たちは、それが「人々の興味を呼び、悪いどころか良い結果になった」と報告している。

土地が得られる見込みはほとんどなかった。住んだり集会に使ったりする家を見つけるのもむずかしかった。初めはたいの集会を宣教師のアパートで開き、いつも35名ほどが出席した。

1957年5月には反米暴動が起こり、宣教師は「米軍屋敷」に数日間避難した。長老たちは病気に用心しなければならず、言葉はいまだに大きな壁となっていた。

しかし1957年の暮れまでには台湾全土で50名ほどのバプテスマがあった。

険しい頂とそびえ立つ信仰

台湾

エンサイン編集特別主幹
ジャニス・クラーク



1958年にはさらに120名のバプテスマがあり、年の終りには6都市に31名の宣教師が働いていた。1959年にはマーク・E・ピーターセン長老が台湾を訪れ、この地を福音伝道の地として奉献した。教会幹部の訪問はそれが最初であった。（デビッド・O・マッケイ大管長がずっと以前に中国全体を奉献してはいたが。）伝道活動の開始以来3年半を経過した1959年末には、8支部が組織され、宣教師は45名に増え、そ

のうち14名は土地の聖徒たちであった。

1960年代は全般を通じて発展の一途をたどったが、その2大事業が台北と高雄に建てられた大きな礼拝堂とモルモン経の翻訳完了であった。指導者の養成にも力が注がれた結果、1965年中には16支部中11の支部を地方の兄弟たちが管理することとなった。

1971年1月11日、南部極東伝道部に伝道の経験を持つマラン・R・ジャクソン長老が、台湾台北伝道部の伝道部長として赴任した。現在は3地方部を擁する伝道部と合衆国軍人の地方部と30支部、7千人以上の教会員がいる。平均200名の宣教師が全時間を伝道に捧げており、現在の伝道部長はトーマス・P・ニールソンである。台北、台中、高雄に3つの礼拝堂があり、台東にも現在建築中である。教会機関誌は「聖徒の声」という名称で広く読まれている。神殿訪問のために出国の許可を取るのはむずかしいが、古い記録によって系図を何千年も昔にさかのぼることができる。地域の教会員の喬瑟芬王（ジョセフ・ワン）兄弟がコーディネーターとなって、中国人の3地方部に活発なセミナーとインスティテュートが開かれ、420名ほどの生徒が登録されている。

台湾の人々がこれほどに福音を受け入れやすいのはなぜなのだろうか。当時嘉義支部長の張翔（チャン・チェン・シャン）兄弟はこの疑問に対して、台湾台北伝道部の月刊誌の中で次のように返答している。

「中国は5千年の文化、文明、伝統を持つとよく言われる。現在も中国人の多くが神を拝む風習に従っている。彼らは、神の姿を取った偉大な力が全自然、全宇宙を支配すると信じている。台湾では太陰暦の1月9日に4種類の果物を供えてその神を拝む。彼らの神に対する概念がたとえ多くの点で異なっていようと、中国では神々への信仰は昔からの伝統なのである。

中国人がなぜ教会を受け入れやすいかということのもうひとつの理由は、中国文明である。古代、中国は東洋最

大の文明国であった。代々の王朝は世界各国の客人を歓迎した。中国は何百年にわたり、あらゆる職業、国籍、宗教の人々を自国に迎え入れ、その文明の利点を吸収した。大勢の中国人がその進取的な文化交流に啓蒙され、時がたつうちに段々と、中国人は外国の文明や宗教を受け入れやすくなっていったのである。私たちの教会の福音は外国人によって紹介された文明のうちでも最もすぐれたものなので、神の真理はそれに出会う多くの中国人から愛されるのである。

中国社会は家族と国家と文化に土台を置く。大半の中国人は非常に強い愛国感情を持っているが、それは中国人が情というものに大きな価値を置いているからである。イエス・キリストの教えも愛などの徳高い感情を中心としているので、中国人はキリストとその教会に対して実に友好的である。

もうひとつ特筆すべき興味あることは、中国人の慣習が古代イスラエルとほとんど同じことである。多くの中国人は宣教師から初めて福音を聞いたときに、救いの計画や神の存在に共鳴する。彼らは先祖を敬い、拝んだりもする。仏壇を作り、家系図を作る。中国の系図信仰の素晴らしさのゆえに、私は家系を4千年も昔まで調べることができたのである。（*The Taiwan*

Missionary 「台湾伝道」1973年7月号）

福音を受け入れることの典型的な例が蚵寮支部である。王天徳（ワン・チェンタイ）兄弟は18年間、特定の教会に属さずに蚵寮でキリスト教信者のグループに説教師として福音を説いてきた。王兄弟の娘が宣教師に会ったとき、什分の一や、禁酒、禁煙、日々の祈り、聖書の勉強、水に沈めるバプテスマなど、父親の教えていたことと多くの点で共通していたこともあって、彼女は宣教師の言葉を真理だと思った。彼女は神の教えを父に伝え、しばらく後の1973年4月1日、王兄弟一家はそろってバプテスマを受けた。その日、王兄弟は信者たちに次のように言った。「18

年間、私は皆さんにバプテスマを授けてきました。しかし私は権威を持たないでそれを行なってきました。福音は回復されて、神権があります。皆さんは私についてきて下さいました。

これまで何年も私を羊飼いと信じて下さいました。どうか、きょう、私について、バプテスマの水に入りたいと思います。」その同日、50人の信者がバプテスマを受けた。彼らの小さな礼拝堂はこの教会に委譲され、すぐ後で王兄弟が支部長に接手任命された。

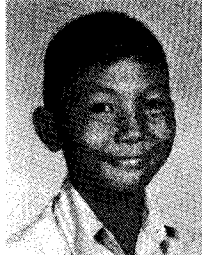
中国文化は台湾の人々にとって非常に重要だが、それは急速な教会の発展にも影響を及ぼしたと言えよう。儒教、道教、仏教もキリスト教と同様大きな影響力を持つ宗教であるが、伝道活動が始まってからの10年間に特定の宗教に正式に所属する人の数が2パーセントから5パーセント以上に増加した。

台湾の人々の生活に大きな位置を占めるもうひとつの重要な要素は、その政治的立場である。台湾は1949年以来、中国本土の支配権を主張する国民党政府の下にある。1949年当時、中国共産党は中国本土を支配し、国民党は独自に台湾を興した。1971年に国民党は国連から追放され、共産中国が議席を得た。1949年の危機に政府を導いた蔣介石総統は、去年の4月に死亡するまで現役で指導を続けた。

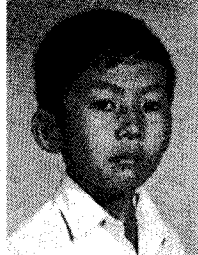
現在の教会が当面するふたつのチャレンジは、文化と政治の情勢である。ほかにも、初期の宣教師が遭遇したとはまったく違う問題がある。しかし台湾の教会員は高い目標を持っている。強力な指導力とステーク部設立と、神殿事業の推進、活発化活動、そして1600万近い民への伝道と。

張翔兄弟の言葉は、台湾の聖徒たちの将来への展望を語っている。「私は台湾の伝道活動が将来もいつも盛んだと信じています。神はいつも教会の中国人を心にかけて下さいます。台湾の宣教師と教会員が強い信仰を持って、立派に耐え続けることができるように祈っています。」

フィリピンの お友だち



バーデン・ピロペロ



エセル・ピロペロ

フィリピン共和国は、一年を通じてあたたかく、木々はいつも緑色をしています。こどもはオーバーコートなど着たことはありませんし、もちろん雪など見たこともありません。

フィリピンの家族はこどもが多く、6、7人いるのがふつうです。家族は小さな家に住み、その家が集まって村をつくっています。ほとんどの家が土地をたがやしたり、家ちくをかったりしています。いなかに行く、たいていの人がお米を作っていて、家族みんなが仕事をてつだいます。ですから、なわしろにまいた種が大きくなり、それを田に植えかえ、そこで大きく成長し、ほが重そうに頭をたれるまでの長い間のことを、こどもたちでもよく知っています。

14年前にはじめてフィリピンに



ラボンネ・ジュンプ



ジャネット・ラミレス

宣教師が送られてきました。今では教会員は20,000人にもなりました。会員はたいていマニラに住んでいますが、フィリピンのあちこちに支部や伝道所があります。

末日聖徒のこどもたちは、プライマリーや日曜学校に行くのがだいすきです。家では毎週月ようびに、家庭の夕べをひらきます。こどもたちはレッスンのおてつだいをするのがいつも楽しみです。

フィリピンはいくつかの地方にわかれていて、それぞれに方言があります。ですから、ほかの地方に住む人びとのことをりかいするために、いろいろな方言を勉強しなければなりません。教会員はほとんど英語を話します。ですから日曜学校やプライマリーはふつう英語で行なわれています。



ジョビタ・サリナス, ローデス・サバ



ジャミー・ラミレス, レオニロ・ラミレス



アルウィン・リム



ミッシー・リム



ミシュレネ・リム



アベルル・リム



マイレネ・リム



アングスティア・ダン



ホンコン
香港の
お友だち



- 1. カウ・チャウ・ハン
- 2. シャン・ヤン・チク
- 3. オー・ヤン・チー・コン
- 4. ング・ポー・イー
- 5. エル・マカ・ミン
- 6. チャウ・カ・キー
- 7. チャウ・キム・チン
- 8. チャウ・カウ・ファ
- 9. オー・ヤン・チー・ミン
- 10. ウォン・シュー・ミン
- 11. オー・ヤン・チー・コン
- 12. チャウ・カ・キー
- 13. カウ・チャウ・ハン
- 14. チャウ・キム・チン





こどものころのことを考えると、時間のたつのはとっても早いと思います。心に残っている一番楽しい思いでは、プライマリーに行ったときのことです。そこでイエス・キリストの大きな愛について学んだり、主をさん美する歌を歌ったりしました。短い劇を作ったり、ゲームをしたりもしました。先生たちはよく教えてくださり、私たちがよいところをのびせるように助けてくれました。

プライマリーを卒業するとき、卒業証書と開拓者の旗をもらいました。うれしくて、どう言ったらいいのかわからないくらいです。教会のひとつのコースが終わったしこの美しい旗を手にする事ができて、とってもうれしいです。でも、もうプライマリーに行けないのかと思うと、さみしいです。

——ウェン・チェン・イ

ある日庭にいと、ふたりの外人の女の人が家に入ってきました。ふたりはドアをノックすると、宣教師だということをお話しました。そこでふたりを中にまねき、お母さんをよんできました。

それから福音の勉強がはじまったのです。そしてすぐに教会に入りました。学校の先生も教会員でした。そして生徒たちに、プライマリーや日曜学校に出席するようにと言っていました。

台湾のこどもたちは学校がいそがしいです。遊ぶ時間などあまりありません。でも休日には魚つりに行ったり、山に登ったり、泳いだり、それに家でチェスをしたりします。

たいていの人は仏教徒です。おまつりになると、紙のお金を焼いて、

かんしゃく玉を爆発させ、家に幸運を招き入れ、悪魔を追い払います。

——リウ・チェン・チェン

ある日ふたりの長老がやって来て、福音について話してくれました。家族はみんなこの話に感動してしまいました。

家族がバプテスマを受けてしばらくしてから、私にもバプテスマのときが来ました。教会が思ったよりもすばらしく、聖いことを感じました。教会に足をふみ入れ、おだやかなさん美歌とピアノの音を聞くと、いつも喜びでいっぱいになります。さん美歌を歌っているときはなおさらです。

時間がたつのはほんとうに早いと思います。教会に入ってもう3年になります。これからも福音をよく学び、りかいしなければならぬと思っています。末日聖徒イエス・キリスト教会はほんとうの教会です。神様のいましめを守って、清い生活をし、教会を大切にしたいと思います。

——リン・ウェイ・ウェイ

ぼくはチン・ファーです。小学校3年生です。お父さん、お母さん、それにきょうだい6人でくらしています。みんな教会員です。一番上のお兄さんはBYUのハワイキャンパスにいます。もうひとりのお兄さんは台湾で勉強しています。

家族は教会がこの国にできてからずっと活発です。今では教会のない生活なんて考えられません。ここにいる多くの会員がぼくのことを心から愛してくれます。ぼくはきょう年8さいになったのでバプテスマを受けました。ぼくは家庭の夕べのような

教会の活動がだいすきです。

天のお父さまはぼくたちを愛してください。この世はとても美しいところ。神様がほんとうの教会を与えてくださり、愛されながら成長できるので、とてもうれしいです。

——チン・ファー・シャン

8さいのとき、お母さんが私を教会に連れていってくれたので、教会についてよく知るようになりました。

プライマリーでいろいろなことを学びました。何かこまったことがあると、プライマリーの先生が助けてくれました。プライマリーを通して、私はいろいろなことを学び、証を得ることができたのです。これは神様からの祝福です。よい教会員になれば、もっと多くの祝福が得られることも知っています。

——テン・チア・チイ

ぼくの家族は全員教会員です。お父さんは学校の先生です。やさしくて、こうふくにしてくれます。お母さんもやさしいです。ぼくたちのために一生けん命働いて、いろいろなことをしてくれます。そのようにしてくれるお母さんに感謝しています。

ぼくには3人のお姉さんがいて、いつもどうしたらよい子になれるかを教えてくれます。ときどきけんかをしますが、とてもいい友だちです。

末日聖徒イエス・キリスト教会はほんとうの教会です。ぼくの家族は神様が与えてくださった永遠の家族であることも知っています。

——リ・マン・チェン



小さなお友だち



お母さんはよいむすこをもちました

じふにしとひびきかいほじほ
十二使徒評議員会補助

アドニー・Y・小松

わたしは34年と少し前、まだ高とう学校に通っていたころ、はじめて、せんきょうしに会いました。せんきょうしはMIAのバスケットボールのチームに入るようにといました。教会のことは、なにも知りませんでした。バスケットボールは大すきだったので、MIAに行きました。それから、日よう学校にも、せいさん会にも行くようになりました。

1年のあいだ教会につどい、せんきょうしといっしょに、ふくいんを勉強しました。ジョセフ・スミスが、はじめて神さまと会った話を読み、バプテスマをうけて教会に入ろうと思いました。その夜、わたしはバプテスマをうけようと決心し、家に帰ってお母さんに話しました。お父さんは、もう死んでしまっていました。

お母さんの目から、なみだがあふれました。なぜ、なくのですか、と聞きました。

お母さんは、いいました。「うれしくて、なくんじゃありませんよ。かなしいんですよ。」お母さんは、また、むすこをうしなわなければ、ならなかったのです。お父さんがしんだあとお兄さんもしにました。お母さんは、わたしを、キリスト教会に、とられてしまうといいました。

お父さんがしんだあと、お母さんはそのベッドのわきで、子供たちを、りっぱな仏教とにしますと、やくそくしたのです。わたしは、1年間、せんきょうした

ちとまじわっていたこと、いつもよいことを学び、わるいことは、なにも学ばなかったことを話しました。

そして、もしバプテスマをうけたあと、お母さんをこまらせたり、はずかしい思いをさせたりしたら、教会に行くことをきんしてもいいです。口答えはせずに、お母さんのいうとおりにします、とやくそくしました。

それから、こういいました。でも、もしよい人になって、お母さんをたいせつにして、家族や弟や妹にしんせつにできるようになったら、こういいますよ。「ずっとつづけて、教会に行かせて下さい。教会は、えいへの生命をうけるために、いろいろなことが勉強できるところなのです。」

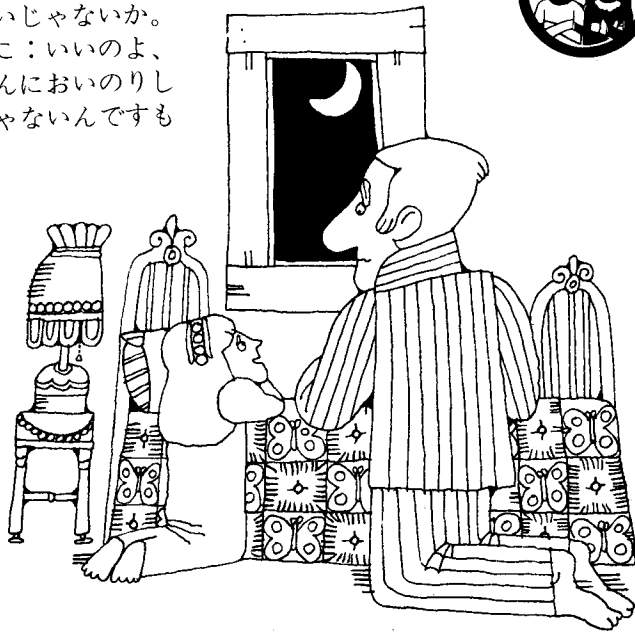
わたしは、お母さんにとめられないかぎり、教会をはなれなくともよくなったのです。それから、せんきょうしに教えられた、ふくいんのげんそくにしながらって生活し、自分でも、げんそくを勉強しました。そして、天のお父さまから、しょうらい、お金にこまることはけっしてないという、かくしんをえました。

バプテスマをうけてから、ずっと、ふくいんのげんそくを、実行してきました。マタイ伝のこのせいくが、大すきです。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33)

おとうさん：大きなこえで、おいのりしておくれ、きこえないじゃないか。
おんなのこ：いいのよ、おとうさんにおいのりしてるんじゃないんですもの。



おもちゃばこ



ある夜のこと、ダニーはロニーのおいのりをたすけてやっていました。ロニーは、よいことばがみつけれなくて、とちゅうで、なんどもつかえました。ダニーは、じれったくなくて、こういいました。「はやくしろよ。天のお父さまのじかんを、むだにするんじゃないよ。」

ビビアン・コーベット

なにが、かくれているかな

ビバリー・ジョンストン

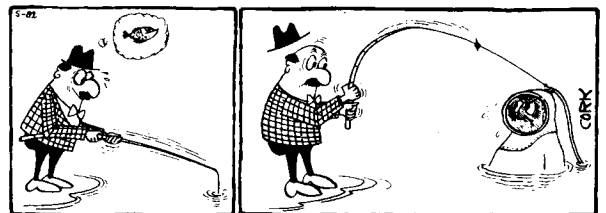


てんをむすんでみましょう

このどうぶつは、木にのぼりもせずに、高いところのはっぱをたべます。さてなんでしょう。



おにわに、いろいろなものが、かくれています。さがしてあげてください。ウサギ、エンピツ、メガネ、コトリ、アヒル、アイスクリーム、コップ、カサ、ハンドバッグ、カタツムリ、クツ、チョウチョ、アイロン、サカナ、タコみんなみつかうたかな。





この中に虫が6びきかくれています。
さあ、見つけて、色をぬりましょう！



日本 日出づる国の福音の光

渡辺駿、坂井圭、八木沼修一
ミルドレッド・E・ハンディ
グレース・フラム

「日出づる国」——素晴らしい島国、日本を言い表わそうとする詩的表現は数多くあるが、これもそのひとつである。この島国はアジア大陸の東の海に、まるで幸福な家族が手に手を取り合っているかのように、浮かんでいる。この国こそ、4半世紀という短期間に、

